

平成28年度第3回 熊本市中央区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

【日 時】：平成29年2月23日（木）14時30分～16時20分

【場 所】：国際交流会館 5階会議室

【出席委員】：12名出席

古賀会長、杉光副会長、芥川委員、今坂委員、草野委員、佐竹委員、高千穂委員、
田口委員、谷口委員、田原委員、鳥崎委員、南委員

【議事要旨】

1 開会

2 議事

（1）中央区まちづくり事業に関する協議結果の報告について

（古賀会長）

それでは、議事に入らせていただく。

まず、議事1の「中央区まちづくり事業に関する協議結果の報告」は、議事というより報告案件であるが、前回の懇話会における協議結果を資料1のとおり取りまとめて、区長に文書で報告している。

内容を確認させていただくと、平成29年度のまちづくり事業として提案された「からだいき健康フェスタ」及び「中央区スポーツ交流事業」の2つの事業については、推薦させていただいた。

また、本年度実施している「中央区だより制作・配布」などの6つの事業について、継続して実施するよう要望するとともに、「食べて、話して、繋がろう中央区」については、所期の目的を達成したとして、来年度以降は後方支援を要望している。

なお、本年度の特記として付け加えたのが、熊本地震の発災により事業の一部が中止等されたことから、「3その他」として、まちづくり事業の実施につき、今後とも積極的に取り組まれるよう強く要望をした。この件に関しては、議事3の中で事務局から説明されると思うが、市全体として15%の予算削減が必要とされる中で、中央区では本要望を踏まえ平成29年度の予算要求をされたようなので、改めて説明していただきたい。

前回の懇話会での委員の意見を踏まえ、懇話会での総意として、このような形で報告書を提出したところだが、何かご質問等あれば。

（各委員）質問等なし。

（2）平成28年度中央区まちづくり推進事業の進捗状況について

（古賀会長）

それでは、引き続き議事2の「平成28年度中央区まちづくり推進事業の進捗状況について」事務局の説明をお願いします。

（事務局）

（資料2に基づき、総務企画課、まちづくり推進課及び保健子ども課から、昨年11月以降の事業の進捗状況について説明）

（古賀会長）

事務局から、昨年11月以降の各事業の進捗状況について説明があったが、ご意見等は。

（佐竹委員）

コミュニティ支援補助金の説明の中で、ある校区で熊本地震の際に校区自前の大鍋が活用できなかったというという説明がなされたが、その理由等を知っていたら教えてほしい。

(今坂委員)

私の校区での出来事なので私から説明する。

校区では昔から防災訓練において炊き出しをしており、1つで350人分位が作れる鍋を、日赤から借りたり、社会福祉協議会から借りたりしていたが、借用の申込みが多く借りることが出来ない時期があった。ちょうどその時に、予算に余裕があったので2個購入することとなり、これで何かあっても私の校区は生き残れるという話をしていた。

それで、今回の地震が起きて、700食位は作れるとなったが、もっと多くの避難者がいて行き渡らない時にはどう釈明すればよいかとかのマイナス思考が出た。それから、女性は家にある食べ物を持ち寄って、とにかく暖かい物を提供しようと主張したが、おにぎりとか食べ物はあるのだから、なぜ大ごとをして作らないといけないのかという意見が出された。そのための大鍋でしようと、私はかなり主張したのだが、あまり言う地域の人間関係が悪くなるし、とりあえず引っ込めて、ガスなどを確保して、いつでも出来るように準備していた。それでも、自治会とかの了承を得ないと、女性だけで進める訳にはいかないし、後で勝手にしたと言われるのも嫌なので、結局はあきらめたが、後になって、あの時に少しでも暖かい食べ物が出れば良かったという話が出て、その言葉を伝えてやろうかとも思った。あんな時にどうするかを、女性陣だけでも詳細に決めたマニュアルを作って、押し通さないといけないなど。そうでないと、何のための防災訓練だったのか、何のための大鍋だったのかということになる。私の校区では、その日にうちに電気が回復して、水道も2日後位には通じたが、避難所にいた人は大変だった。女性は毎日食事を作っているから、暖かい物がいかに大事かを理解している。私の校区は、地震対応が比較的うまくいったと言われているが、やはり対応をきちんと決めておかないと、いざという時には混乱すると感じた。

(佐竹委員)

鍋を買い足すとか、考えられそうだが。

(今坂委員)

予算的には厳しい。ただ、利用したいというならば貸し出すことは出来るし、1度に350人分位が作れる鍋は、あまりないので。いざという時には、プロパンではなく、木材で利用できるサバイバル用の鍋を買っていたのだが、このような理由で活用できなかったところである。

(鳥崎委員)

足湯に関しての質問であるが、こういう物を準備して、こういう風に進めてという具体的なノウハウは、委託先の団体が有しているのか。

(事務局)

委託先ではなく、この事業については小町ウイングさん、はあもにいさん及び中央区が一緒になって、小町ウイングのノウハウを使って協働で進めていくというスタンスを取っている。

実は避難所が継続していた8月中旬まで、小町ウイングさんは避難所であるはあもにいで独自に避難者等に対して傾聴を基本とした活動をしており、そのためのツールの一つとして、気楽に来てもらえるよう足湯を実施していた。

それで、避難所の閉鎖にあたり、避難者等から話を聞いてもらえる場所を継続して設けてもらえないかという話が出て、体制を組みなおして、9月から新たにバージョンアップして続けていくこととなったところである。ノウハウのベースは小町ウイングの傾聴で、その一環として足湯をしたり、皆さんで集まって茶話会をしたりとかして、今後の不安に対するお話を聞くなどの活動を続けてきた。3月27日が最後となるが、最終日には次のステージに移っていただくという意味で、卒業式のような感じでプログラムの実施を検討しているところである。

(鳥崎委員)

大変良い取り組みだと思うし、校区の社協でもサロン等を行っているところであるが、こういうノウハウが生かせないかと思った。

避難所で活動されているところを見たことがあるが、団体に具体的なノウハウを教えてもらうことは可能なのか、費用が必要となるのか。

(事務局)

ノウハウについては、3月27日まではあもにいで活動をされているので、足を運んでもらえば、事務局から団体につなぐ事は可能だと思われる。

また、実際に来てもらえば、それほど難しいノウハウはないことが分かるし、しっかり話を聞く、そのためのツールが足湯だということである。経費的な面でいえば、茶話会用にちょっとお菓子でも用意すればよいし、スタッフさえいれば可能だと思う。

(事務局)

今回の熊本地震では、いろんな団体が熊本に来てボランティアとして支援をしていただいたし、現在も支援をしている団体もいる。そのような繋がり中で、今回、熊本県内の災害ボランティア支援団体ネットワークというものが立ち上がり、そこには傾聴だけでなく、防災に関する様々な支援が出来る団体が会員となっている。

なので、地域から防災に関してこういう事業をしたいという要望があれば、事務局を介して団体に相談するなどして、地域活動を支援することが可能となっているので、事務局に要望してもらえればと思う。

(今坂委員)

今後も足湯は、あちこちで継続していくのか。

(事務局)

先ほど申し上げたが、一定の成果があがったということで、はあもにいで活動は3月27日で終了する予定であり、まちづくり事業としては本年度までとなる。

ただ、小町ウイングさん自体は活動を継続されるし、どこかの場所で足湯などの実施を検討されているようである。

(今坂委員)

備品等の話になるが、足湯専用のバケツがある。足のかかとの形が作っており、実際にとても使いやすい。もし、小町ウイングさんが使用されておらず、予算的に余裕があるのならば、小町ウイングさんにこういう物がありますと教えてあげて申請してもらえば、足湯がもっと快適に実施できると思われるので、参考までに申し上げる。

(古賀会長)

私の方から一つ、井手の魅力発見事業について申し上げたい。

この事業については、2年前に事業提案された方が熊本市から転出され、そういう意味では安永委員さんが引き継ぎとして参加されているが、非常に難しいかなと感じていたが、今回の資料にあるように、熊大の田中准教授が精力的に事業を進められている。

なぜ、このような事を申し上げたかというと、2月3日に向山小学校で研究会があった。向山は1小1中なので、向山小学校・江南中学校で小中一貫連携教育のモデル校となっており、幼稚園も含めて発表会があったのだが、その中の6年生の授業で「まごころ町民になろうー向山校区の未来を考えるー」という公開授業があり田中准教授がいた。その理由を尋ねたところ、資料にある「お互いさま食堂」に向山小学校の先生が参加されており、その際にこういう事で困っているという話をされ、それならと田中准教授が応じられ、「コミュニティ・デザイン」の視点から助言いただいたことから、子どもたちにとって良い刺激になったという結果がある。

そういった意味で、直接に事業に関心がある人だけでなく、人の繋がりで広がっていったというのが感想である。懇話会でも議論があったが、学校という場所は入り方が難しいし、敷居が高い所がある。そういった中で、大井手の楽校という形で学校に関わっていった。向山校区は、これまで担い手などの課題で地域づくりが難しかった場所だったのが、こういう形で地域づくりが進んだということで紹介させていただいた。

(3) 平成29年度中央区まちづくり推進経費（案）について

(古賀会長)

平成29年度中央区まちづくり推進経費（案）について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

(資料3に基づき説明)

(古賀会長)

ただいま事務局から、平成29年度中央区まちづくり推進経費（案）について説明があったが、ご質問等があれば。

(鳥崎委員)

事業毎にメリハリのついた、良い予算配分案だと思う。

その中の中央区地域活性化支援事業について、具体的にどうなっていくのか詳細は見えないが、大江が北と南の2つのエリアに分けられており、これは福祉の面から捉えると、「ささえりあ」の担当圏域が2つに分かれてしまうこととなる。これまでは、3つの校区で連携して福祉を進めており、福祉のまちづくりという発想で繋がりを強めてきた中で、大江が北と南に分かれてしまうと、福祉の面では、事業を地域づくりに生かしていくのが困難になるのではないかという懸念がある。

(事務局)

ここに記載している4つのエリア、特に大江が北と南に分かれているのは大江公民館の所管するエリアを便宜的に分けているところであり、基本的には校区単位で地域担当職員を配置していく。その中で、この予算をどのように使っていくかであるが、地域担当職員が地域に入って、地域のニーズを踏まえて、課題解決に向けた予算の組み立てをしていくこととなる。

ご意見があった、「ささえりあ」単位での健康まちづくりとか包括支援などについては、柔軟に対応できるよう取り組んでいきたいと考えている。地域担当職員が「ささえりあ」から地域の提案等を聞いて地域の活性化に取り組むのであれば、このエリアにこだわるものではない。

(鳥崎委員)

地域担当職員は、校区ごとに配置されるのか、エリアごとに配置されるのか。

(事務局)

地域担当職員は、センター長まで含めれば9名の職員を配置する予定である。なので、地域担当職員は8名ということで、3つの校区を2人の地域担当職員が担当するという感じとなり、1人1校区ではない。たぶん地域担当職員は複数名で活動するので、正副を設けるというような形で担当しながら、まちづくりセンターの中で地域の情報が共有できる体制を確立していきたいと考えている。

(南委員)

別件であるが、熊本市では4月14日又は16日に、熊本地震を振り返る機会を設ける計画は予定しているか。

(事務局)

熊本市全体としての慰霊式とか講演会とかは、危機管理部門で検討している段階と思われるが、避難所の運営担当職員を実際に、その日に配置してみる等の訓練は予定している。

(田原委員)

中心市街地では、４月１４日～１６日に詳細は未定だがイベントを実施する予定である。

(古賀会長)

来年度から設置されるまちづくりセンターが、どの程度実効的な事業ができるか、なかなか１年目から成果を挙げるのは難しいと想定され、これからの活動の基盤づくりが平成２９年度の課題となるだろうから、まちづくり事業がそのきっかけになればと考える。

ただいま各委員からいただいた意見を参考に、平成２９年度のまちづくり事業の推進に取り組んでいただきたい。

それでは、予定されていた議事は終了したが、各委員から何かないか。

(田原委員)

私の校区には現在、コミセンがなく建設を要望しているところであるが、熊本市の内部で何か動きがあれば教えてほしい。

(事務局)

２月１５日に中央区で開催された市長との「どんどん語ろう IN 中央区」の中でも質問があったので、それが最新情報と思われる。

コミセンの建設は地域活動推進課が担当しているが、校区にコミセンを建設してほしいという機運があることは十分認識しており、平成２８年度もいろいろ模索したが、結果的には建設するということまでは至らなかった。

それで、早急に検討していきたいということになったが、市長の発言にもあったように、地域的に地価も高く土地の確保が困難という課題もあるので、公的施設の改築の際に合築するなどの方策も含めて検討していくという状況である。

(草野委員)

地域担当職員は、その地域に長年住んでいる職員が配置されるのか。

(事務局)

現在、地域担当職員の人選をしているところであるが、必ずしも当該地域に居住する職員を配置するものではない。反対に、他の地域に住む職員のほうが良いということもあるだろうが、今年度配置される職員は、市長の公約である地域主義に関することなので、地域に入って積極的に事業に取り組んでくれる職員が配置されると思われる。

(今坂委員)

地域からは様々な要望が出されるであろうし、地域の常識は世間の常識と違うように進むことがあるので、ハートが強い職員の配置をお願いしたい。もしかすると、地域内での揉め事とかの相談もあるだろうし、中央区の場合は区役所内にまちづくりセンターがあるので大丈夫だろうが、地域に出て行くとなるといろいろあると思う。精神的にタフな人でないと、務まらないかなという気がする。

(事務局)

中央区としても、地域担当職員が自分の中に抱え込まないように、組織として支援していきたいと考えているし、職員を育てるつもりで対応していきたい。

(鳥崎委員)

地域活性化支援事業について、エリア毎に１００万円が予算計上され、うち委託料として７０万円が措置されているが、これはイベント等を実施する予定で、どこかに委託することを想定しているのか。

(事務局)

予算要求をする段階では費目を設定しなければならないので、事業をする時に委託ができるよう委託料や、講演会をする際に講師を招くための報償費、チラシを作成するための需用費とか、柔軟に事業実施に対応できる費目に予算計上したところである。

地域担当職員が地域の課題解決に取り組もうとした時に、使いやすいようにという観点から費目設定を行った。

(谷口委員)

中央区では、みなし仮設に入居されている方に対して巡回訪問されているが、他の地域から来られた方から、地域のサロン等の場所がわからないので、そういう情報が欲しいという話を聞いた。そういう中で、中央区では孤立防止プログラムとして足湯をされているが、校区を越えて取組んでいただければと考える。

「ささえりあ」でも様々な取り組みをしているところであるが、出来る部分はタイアップして取組んでいきたい。

(事務局)

現在、東区と南区には仮設住宅があり、中央区にはみなし仮設住宅が多くある。仮設住宅には支援が届きやすいが、みなし仮設は分散して所在していること等から、支援の手が届きにくい状況であり課題として認識している。

このため、ささえあいセンターを市役所内に設置して、市民病院の看護師にみなし仮設入居者の見守りをさせているところであるが、区としても、今後はみなし仮設入居者に対して傾聴活動などを含めて取り組みをしたいと考えており、地域の民生委員さんや「ささえりあ」などと一緒になって支援したいと考えている。また、みなし仮設住宅の制度は2年で終了するので、それに向けてどう生活再建の支援をするか、避難者ごとの対応を、ささえあいセンター等を通して検討していきたいと考えている。

(谷口委員)

現在、水前寺公園の方で健康サロンを実施しており、避難所におられた方とかみなし仮設に入居されている方とかが来られるが、他の校区から来られる方も多く、そこで集まっていろいろ話をし、情報交換をされている。

1人でいると話し相手もないので、他の人と話をする場所を求められており、そういう支援も実施していただければと考える。

(事務局)

サロン活動の件であるが、来年度に高齢者福祉の面から総合支援事業として、校区毎に事業所に委託してサロン活動を展開すること検討している。現在、保健子ども課で実施しているサロン活動や「ささえりあ」でされているサロン活動に、地域になじんでいない人達が参加することが必要になるので、みなし仮設に入居されている方達だけでなく、地域に居住する高齢者の方達もサロンに参加されるよう取組んでいきたい。

新たに地域に来られた方についても、民生委員などの力を借りながら、ささえあいセンターを案内していただき、個人情報ということで課題はあるが、本人の了承を取っていただければ、職員がその場所に出向いて話を聞いたり、サロンを案内することも出来るので、情報提供をお願いしたい。

(4) その他

(古賀会長)

その他ですが、事務局の方から何か。

(事務局)

(事務局より、懇話会委員の改選の時期であることから改選の方針を説明。また、来年度の懇話

会は4回開催予定であることを説明)

(古賀会長)

来年度は懇話会を4回開催予定ということであるが、議事1の報告書で言及したように、まちづくり事業の推進は、地域の魅力向上等に資するだけでなく、震災復興に寄与するものなので、来年度以降も事業の推進に向けて、懇話会で活発な忌憚のない議論を行っていただきたい。

また、来年度の委員選考について事務局から説明があったが、これまでの委員会で、委員の皆様が述べられた様々な意見等が、今後の中央区又は熊本市のまちづくり事業に活かされるようお願いする。

それでは、今回が現在の委員の任期の最後の懇話会となりますので、各委員から任期を務められての感想を、一言ずつお願いしたい。

(各委員)

(各委員より挨拶)

(古賀会長)

私からも3つ、キーワードを拾い上げたい。

1つ目は、「区」の位置づけについて。この懇話会が出来たのは、熊本市が政令指定都市に移行して、どういうまちづくりを進めていくかということが出発点であった。政令市になって様々な変化があったが、ようやく区の姿が見えてきた。今回、まちづくりセンターが区に設置されることとなったが、地域の構造は、これまでは熊本市(全体)と校区だったのが、中間にある区がどれだけ身近な存在になるかを問われたのがこの4年間で、その結論がまちづくりセンターの設置だったと考えている。これまでのまちづくり交流室は、十分に機能が発揮しにくい組織機構となっていた。その部分を今後、まちづくりセンターという形で市民の前に発揮していく、それが見えてくるのがこれからだと考える。

2つ目は、「市民からの事業提案」。まちづくり懇話会では、それが出来る・出来ないではなく、出来るようにするためにはどうしたらよいかを検討することが重要である。1年目、2年目はワーキンググループを作って、提案者と一緒になって作り上げていった。ある程度の流れが出来てからは、ワーキンググループは設けなかったが、市民提案の大きな枠組みが出来たということである。

3つ目は、「各校区にある地域資源の活用」である。杉光副会長から水前寺賑わい祭りの話が出たが、神社の地域への協力が難しい時代もあった。いろんな形でアプローチをしても、なかなかまちづくりが進まないことがあったが、神社自体も意識が変わってきて、そこの事務局の人達の地域に開かれた活動への気運、それと熊本ルネッサンスとかの実績のある活動が結びついて、水前寺賑わい祭りとなった。非常にプロセスが見えてきたということで、ここで高校生を活用する、JRとかの事業者にも繋げるなど、これから事業を進めていく上で、市民のアイデアを具体的なビジネスに結びつける方向性のある活動であったと思われる。中央区の場合、熊本城という財産があるが、これは熊本市民全体の財産であり中央区だけの財産とは言い難い。こうした中、中央区の地域資源である水前寺をどう活用していくか注目したいと考えている。

委員の皆様には、この任期中、大変お世話になったということでお礼を申し上げたい。

また、事務局の方々にも、お礼を申し上げたい。事務局の方々には人事異動があり、全員が変わったという年度もあったが、一から勉強で取り組まれて、それが平成29年度に花開くのではないかなと思っている。

(事務局)

(萱野区長よりお礼の挨拶)

(古賀会長)

それでは、以上をもちまして会議を終了させていただく。

委員の皆様、本当にありがとうございました。